

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
広報活動の向上	中長期重点取組の1 「中学校や地域への本校の効果的な情報発信を行うと共に、メディアへのアピールを強めます。後期入学者選抜での競争倍率1.2倍を目指します」	○3年生「課題研究」生徒の企画・運営による説明会の実施または、中学校への訪問説明会・模擬授業を行った。 ○後期選抜では募集128名、志願者が158名。6年連続で総数で定数超過を果たすことができた。 28年度 情報科 1.05倍 商業科 1.30倍 計 1.23倍 27年度 0.97倍 1.16倍 1.11倍 26年度 1.22倍 1.55倍 1.46倍	○高校生活入門講座や学校説明会は、生徒が企画し実践している。在校生が語る言葉は説得力があり、中学生にもわかりやすいと考える。 ○学習塾への説明会(11/19)を実施し、多数の参加者があり好評であった。 ○今後も中学生や保護者が必要とする情報を発信して、学校の魅力をPRすることが有効である。
進路指導の充実	中長期重点取組の3 「ジョブシャドウイング(しごと密着体験)などを含めたキャリア教育を推進すると共に進学を含めた多様な進路希望を実現するため、効果的な教育課程や進路指導の在り方の検討をすすめます」	○2月に1年生全員が62事業所の協力によりジョブシャドウイング実施し、キャリア教育の一環として多種多様な産業、職業の理解を深めることができた。 ○3年生に対して進路講話7回、外部講師を招聘して「キャリアデザインセミナー」を実施した。このセミナーの満足度は100%であった。 ○朝日大との連携事業では、7/7(火)に同大学83名が訪問し、施設見学とともに講義を受け、簿記に対する学習意欲や大学進学への意欲向上を図った。	○進路状況は昨年度より、就職者が増加傾向にある。 27年度 就職168名・進学111名(4年制大学42名) 26年度 就職168名・進学103名(4年制大学32名) 25年度 就職171名・進学100名(4年制大学32名) 低学年からの4年生大学向けに特化した説明会・個別面談などを継続的に行う必要があると思われる。 ○専門性を生かした大学進学、商業高校からの国立大や難関私大への進学について、学年・進路・各教科と共通の認識を持って生徒を支援していくことが課題である。
商業教育の充実	中長期重点取組の2 「ビジネスの高度化・多様化に対応するため、基礎学力の充実はもとより、インターネットやインターンシップ、地域や企業と連携した学習といった時代のニーズに応じた教育活動に取り組み、教育内容を充実させます。商業系クラブの活性化や各種検定試験や資格試験への対策強化、効果的活用を図ります」	○インターネットショッピングでは「三重まなびや」の運営を開始した。(商品販売企業9社、協賛企業4社) ○地元商店街でのキッズビジネス開催やパソコン教室、生徒企画オリジナル商品の開発・販売等、地域づくりに貢献する取組を進めることができた。 ○全商検定1級の3種目以上取得者は3年生で82名(1名減少したが、依然県内最高人数を維持)。商業系クラブ3つ(珠算電卓・簿記・ITC)が全国大会出場。	○「三重まなびや」に賛同し参加してくれる企業をどのように増やしていくかが課題である。 ○検定学習週間の取り組みを一定の成果が出ている。あり方については引き続き検討をしていく。 ○個々および組織としての授業力・指導力の一層の向上、人材育成は、本校でも大きな課題の一つである。しかし、地域交流やイベント実施は費用や一部教員の負担が大きく、過重労働にもつながるので、対策が必要である。
クラブ活動の強化	中長期重点取組の4 「クラブ活動の一層の活性化と活動環境の充実に取り組み、運動部文化部を問わず複数のクラブで常に全国大会での上位の成果をおさめることを目指します」	○県総体女子の部2年連続総合優勝(過去5年で優勝3度、2位、3位が1度ずつ)。全国総体へ4部(バスケ・テニス・バド・陸上)出場。バスケ部国体5位。バド部国体5位。 ○文化部東海大会7部、全国大会5部出場。また、地域での訪問演奏やボランティア活動イベント運営など地域と連携できた。 ○野球場防護ネット整備の完了。	○バスケボール・バドミントン・テニス・陸上(駅伝)のそれぞれ女子のクラブは三重県強化指定校となる。 ○平成30年インターハイ、平成33年三重国体に向け、一つでも多くのクラブが優勝し、学校全体のさらなる活性化を図りたい。

(2) 組織の状態の評価結果

総括・各種アンケート・アセスメントから明らかになった状況

強み	<ul style="list-style-type: none">○伝統校としての強み。“泗商ブランド”の存在。それらのことが、立地条件の良さと相まって、抜群の就職実績（年度により差はあるが、事務職就業割合は6割弱）をもたらしている。地元企業や地域住民の、泗商に対する評価は総じて高い。○泗商に誇りを持つ生徒、教員の存在。また、卒業生の母校に対する関心度の高さ。○極端に少ない遅刻や早退、生徒の問題行動。授業が大切にされ、全体として落ち着いた学校、安全な学校の状況であること。
弱み	<ul style="list-style-type: none">○伝統校であるが故に、改革や急変を望まない雰囲気若干残されており、生徒像の変化への対応が遅れがちである。○それぞれが多忙化し各部や学年の横の繋がりが薄くなっている。また、教員集団に情報共有やものごとに対する共通理解を生みにくい状況がある。○三重県の商業教育の拠点校であり、沢山の事業を展開しているため、特定の教員にかかる負担が大きい。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等

<実施回数> 2回

実施内容	<p>第1回：学校関係者評価の概要、学校経営の改革方針の説明を行い、各委員より質問があり応答した。また、貴重な助言をいただいた。</p> <p>第2回：各委員による今年度の重点取組についての評価をいただいた。</p> <p>他に、人権教育推進協議会にてご意見等をいただいた。</p>
------	---

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題

関係者評価	<ul style="list-style-type: none">○広報活動の向上において、生徒が主体となって説明会や中学校訪問を実施していることは評価できる。積極的に次年度も取り組んで欲しい。○ジョブシャドウイング実施したことは評価できる。次年度以降、実施上の課題を改善しながら継続して欲しい。○「三重まなびや」に賛同し参加してくれる企業をどのように増やしていくかについては、泗商のブランド力を活かして増加できるように努力して欲しい。○クラブの活躍は大変評価できる。しかし、顧問の過重労働問題、強化指定校としての責務(プレッシャー)や遠征費等の増加への対応が課題と考えられる。
-------	---

(5) 組織力向上のための取組（改善策）

次年度に向けた取組

	<ul style="list-style-type: none">○入学志願者を増やすためには、学校自体の魅力を上向きさせるとともに、いかにPRするかも大きな課題である。前者については本県商業教育研究会本部校として、教育の質の向上を今後も図っていく。また後者については前例にとらわれない重点的な人員配置や、広報活動へのテコ入れなど、学校全体としての取り組みをさらに進めたい。○「地元企業への就職」を希望する生徒・保護者に対し、どのように大学進学へ視野を広げさせるか、このことを本校キャリア教育の大きな課題の一つととらえ、系統的・総合的に今後も取り組みを進めていく。また、ジョブシャドウイング等をとおして多種多様な産業、職業の理解を深め、職業観・勤労観の育成に努めたい。○授業力向上、人材育成につながる研修会などの取り組みをはじめ、組織的・計画的な取り組みをも重ねることで、学校経営の質を高めていく。○総労働時間縮減に向けて、従来からの取組である定時退校日に加え、定時退校週間（1回）を実施したところ定時退校者、年休取得率の増加につながっている。次年度も退校週間を定例化し労働時間縮減を目指したい。
--	--